

『心理学研究』と *Japanese Psychological Research* のこれから

皆さん、こんにちは。2015年6月から編集担当常務理事を務めることになりました宮谷と申します。どうぞよろしく願いいたします。

日本心理学会が発行する二つの機関誌——心理学研究と *Japanese Psychological Research* (JPR) ——について、近況をご報告します。おかげさまで、投稿数は順調に推移しており、2014年には、心理学研究で約150、JPRで約80の論文を投稿していただきました。投稿された論文が公刊にいたる過程は、約40名の編集委員、論文ごとに依頼する査読者、そして学会事務局の皆さんの多大な協力により成り立っています。機関誌を支えていただいている全ての方々に、心よりお礼申し上げます。

学会を取り巻く環境が変化するのに応じて、その機関誌も変わっていく必要があります。心理学研究も JPR も、日本の心理学を牽引する専門誌としてふさわしい姿を常に求めてきました。2014年からは編集委員会の下に将来構想小委員会（齋木潤委員長）を設けて、編集委員会の改革について検討してまいりました。その一つの結果として、2015年11月から、心理学研究と JPR の審査をそれぞれ独立した小委員会で行うことになりました。今後はそれぞれの雑誌の特長を活かして、掲載論文の評価を高め、日本心理学会の存在感をしっかりと示せるように、さらに良い機関誌に育てていきたいと思えます。

心理学でも、英語での論文、しかもできるだけ評価の高い国際誌での公表が求められるようになってきました。また、オンラインジャーナルなど新しい形態での雑誌が次々に刊行されています。このような状況の中、特に JPR は大きな影響を受け、今後のあり方が問われています。すでにいくつか変化した点があります。

以前から日本心理学会では、会員以外からの投稿を可能にしておりましたが、2008年に編集手数料・掲載料を無料にしました。また、Web からの投稿も可能になりました。それに伴い、アジアを中心とした外国からの投稿が大幅に増加しております。

また、従来は JPR の特集号に掲載された論文 (Original Article) は優秀論文賞の対象から外

れていましたが、特集号であっても公募による投稿で、査読を経て掲載される論文が多くなったという実情に合わせて、優秀論文賞の規程を見直し、選考の対象となるようにしました。

さらに、すでに心理学研究では、全ての論文を無料で読むことができますが、本号が届く頃には、JPR でも、より多くの会員・非会員に読んでいただけるよう、フリーアクセスが（しかも著者に費用負担を求めることなく！）実現されているはずです。

この他にも、論文の内容や種類は適切か、外国人編集委員の必要性、投稿数をさらに増やす方策がないか（外国からの投稿は増えているのですが、国内からはそうでもないのです）など、JPR に関する議論は現在も続いています。そのいくつかについては、8月に、学会のウェブページ（マイページ）を利用してパブリックコメントを募集しました。新しい論文の種類として Brief Report や翻訳論文を追加する件、日本やアジア諸国の心理学研究の成果を国際的に発信するための手段などについて、賛成あるいは反対の立場からさまざまなコメントを頂戴しました。貴重なご意見をお寄せいただいた皆さま、どうもありがとうございました。

お諮りしたもののうち、論文の種類として Brief Report を追加することにしました。これは、心理学研究における研究報告（すでに公刊された研究成果に対する追加、吟味、新事実の発見、興味ある観察、少数の事例についての報告、速報性を重視した報告、萌芽的発想に立つ報告）に相当するものです。今まで Original Article と Review の2種類しかなかったために、投稿を躊躇するという場合があったかもしれません。是非とも今以上に数多くの投稿をお願いいたします。

機関誌に限ったことではありませんが、今後とも価値あるものとして存在し続けるためには、変えてはならないこと、変えなければならないことを見極めなければなりません。そのためには、会員の皆さまのさまざまな領域、お立場からの応援とご批判が必要です。あらゆる機会をとらえて、ご意見をいただければ幸いです。

心理学研究と JPR を今後ともよろしく願いいたします。

（編集担当常務理事・広島大学教授・宮谷真人）